

平成 29 年 12 月 11 日 (月)

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 マクミランさんご来館に向けて資料準備

1, 前回のご来館に見えた展望

前回マクミランさんが来館なされた折 (11/9) に、百人一首カルタや絵入板本の百人一首をご覧いただき、韻文 (和歌や狂歌、俳諧など) に関心がある、とのお話をうかがいました。そして、折角ならば日本でもあまり紹介されていない作品の翻訳に挑戦してみたいかがかということ、来年度は韻文と絵画を一緒に鑑賞するような形態の作品の翻訳に取り組むという方向で話が進んでいます。有名な和歌や俳諧なら、日本で簡単に手に取ることの出来る活字や現代語訳はありますが、絵と韻文が組み合わさった形態の作品であっても、テキストだけ紹介されている場合が多いからです。

ご自身も詩人であり、版画家やデザイナーとして活躍されているマクミランさんだからこそ、そういった作品の魅力を十分に引き出して紹介して下さるのではないかと、作品選定が始まりました。

2, 西川祐信『絵本徒然草』

『絵本徒然草』¹ (1740 年刊) は、江戸時代中期に活躍した画師、

西川祐信の作で、『徒然草』のいくつかの章段の冒頭部分と、その内容に適した絵を、見開き一丁に描いた作品です (図 1)。

『徒然草』は、江戸時代の人々に大変好まれ、様々な作品でも踏まえられている古典ですが、挿絵があることによって、当時の人々の理解を垣間見ることができるため、興味深い絵本のひとつです。



図 1

祐信はこのような絵本を多く手がけており、古典を親しみやすい形で世に紹介したことで、当時の教育に大きな影響を与えています。

¹ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200002194>

平成 29 年 12 月 11 日 (月)

3、『職人尽発句合』

五升庵瓦全編、梨木祐為画『職人尽発句合』(1797年刊(図2)²は、江戸時代の職人の風俗が挿絵に描かれており、マクミランさんがご関心をお持ちになるのではと思い選んでみました。

「職人〇〇合」という形式は、鎌倉時代末成立とされる『東北院職人歌合』から脈々と続いているそうです、本書は、職人尽歌合³に倣って発句合を行い、それに判詞(優劣を判定する人の言葉)を附したもので、それぞれに職人風俗が描かれています。

次回マクミランさんが来館時には、実際に資料を見ながら議論を交わし、作品の発掘と選定を進めてゆきたいと考えています。



図
2

² <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200017012>

³ 歌合：歌の作者を左右に分け、その詠んだ歌を各一首ずつ組み合

わせて、判者(はんじゃ)が批評、優劣を比較して勝負を判定した一種の文学的遊戯。(『日本国語大事典』)